羽村市リサイクルセンター

環境報告書

2011(平成22年度実績)

目　　次

ページ

私たちの取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

第１章　事業概要

１　施設のあらまし・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
２　私たちの組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

第２章　私たちの環境の取組

１　環境方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
２　環境負荷（リサイクルセンター単年度、推移 ）　9
３　再資源化の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３
４　環境負荷（クリーンセンター単年度、推移 ）・　１８
５　環境負荷を減らす取組・・・・・・・・・・・・・　２２
６　安全衛生などの取組・・・・・・・・・・・・・・・　２３

第３章　コミュニケーション

１　施設の見学・視察・・・・・・・・・・・・・・・・　２４
２　体験学習の受入・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５
３　社会的活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６
４　事業のあゆみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２８

巻末資料

案内図、問合せ先・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９

私たちの取組

国では、２１世紀にふさわしい、資源の消費が抑制され、環境への負荷の少ない循環型社会を形成することを目的とする、「循環型社会形成推進基本法」を平成１２年６月に制定するとともに、この法律と一体的に、容器包装リサイクル法、家電リサイクル法などの、廃棄物処理とリサイクルに関する法を整備しました。

羽村市でも、循環型社会の実現に向け、平成１２年１０月１日に「容器包装プラスチックと雑紙の分別収集」の開始、平成１４年１０月１日に「ごみの戸別収集・一部有料化」の導入、そして、平成１９年４月１日に「硬質プラスチックと金属の分別収集」を開始するなど、様々な施策を展開してきました。

こうした、取り組みとともに、市民の分別意識も高まり、家庭から排出されるごみの量は、減少傾向にあります。

今後も、廃棄物の３Ｒ（リユース、リデュース、リサイクル）を推進し、ごみの減量、資源の有効活用など様々な取り組みを行っていきます。

さらに羽村市リサイクルセンターにおいては、自らの事業活動から生じる環境への負荷の低減に最大限の努力をはらい、地域住民への環境保全はもとより、地球環境の保全に努めてまいります。

平成２３年１１月

羽村市産業環境部生活環境課長
加　藤　　博

■報告する期間
平成２２年４月１日から平成２３年３月３１日まで

■準拠したガイドライン
「一般廃棄物処理施設向け環境報告書ガイドライン2005年度版」東京都環境局

第1章　事業概要

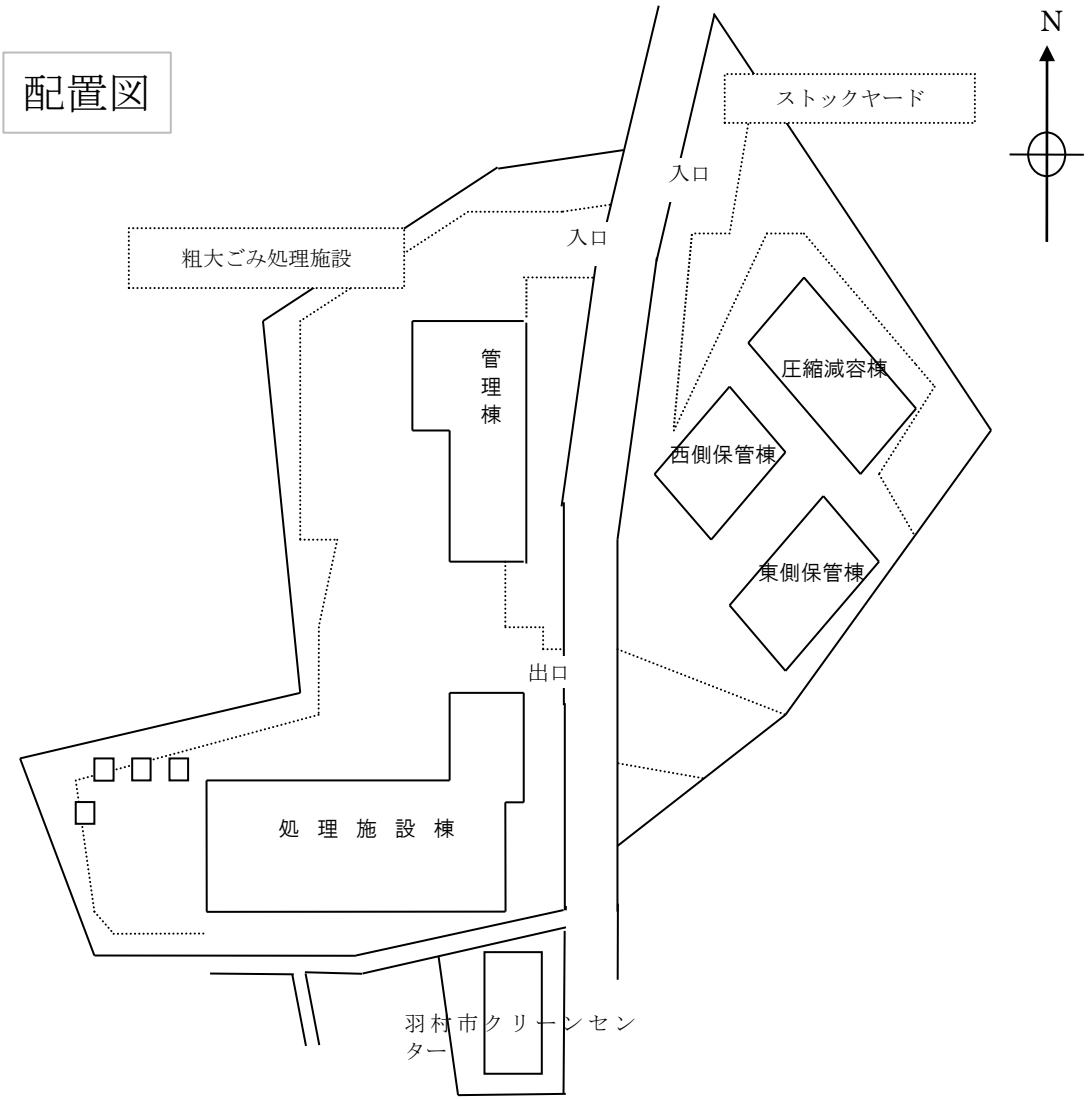
1　施設のあらまし

(1) 羽村市リサイクルセンター

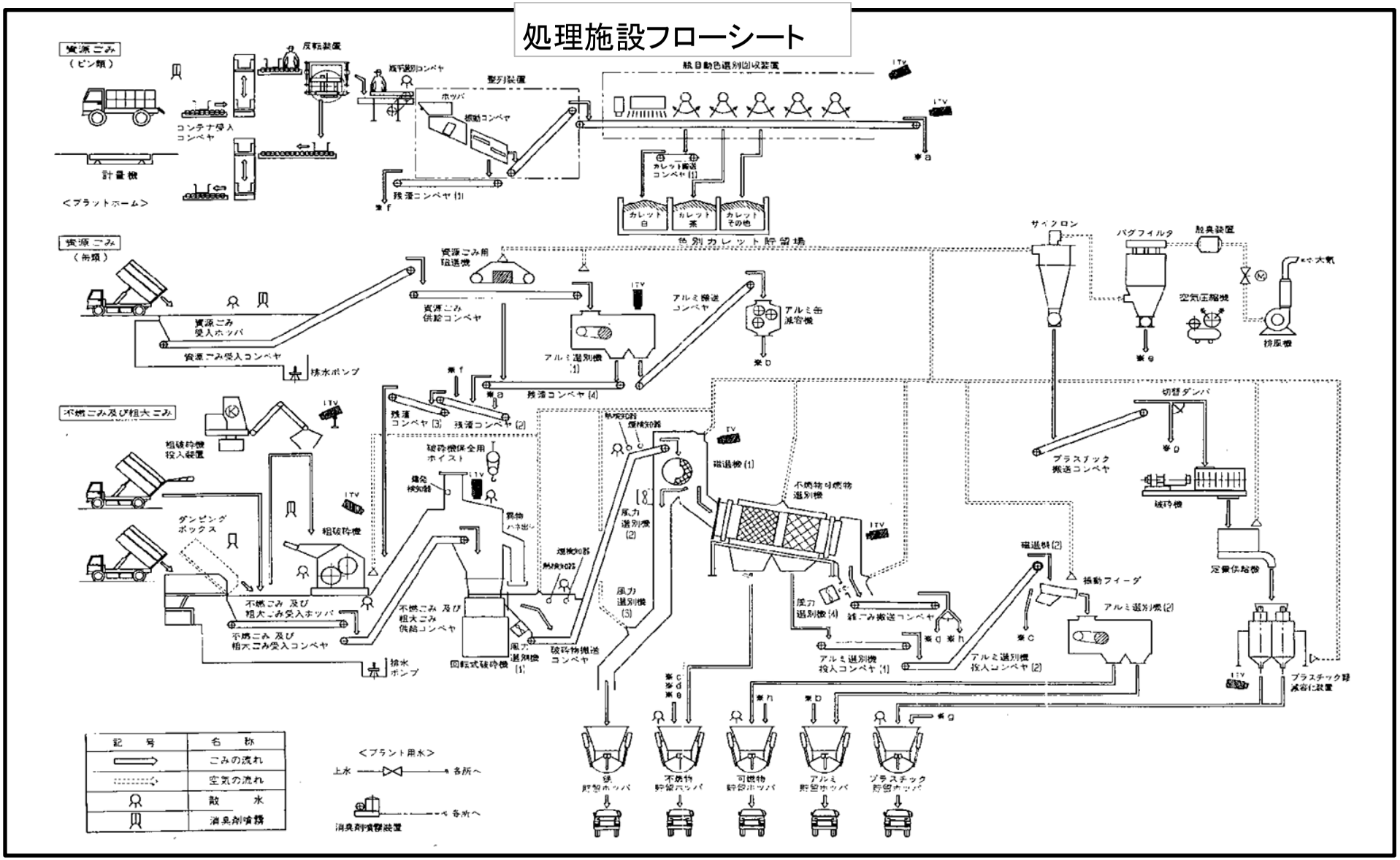
敷地面積　７，３９４．０６ｍ²
延床面積　管理棟　　５８８．４８ｍ²
　　処理棟１，７２６．０５ｍ²
稼働開始　平成８年４月
処理能力　３０ｔ/日（５時間）
処理方法　粗大ごみ：破砕処理５種選別
　　（鉄・アルミ・不燃物・可燃物・プラスチック類）
　　不燃ごみ、資源ごみ：６種選別
　　（鉄・アルミ・ビン・プラスチック類・不燃物・可燃物）
　　ビン類：２種選別〔カレット（３色）、生ビン〕
　　有害ごみ：蛍光管・乾電池：選別
委託業者　株式会社　加藤商事
設計施工　株式会社　クボタ

施設の概要

配置図



処理施設フローシート



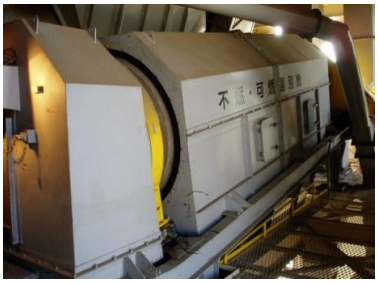
資源ごみ
（ビン類）
反転装置
コンテナ受入コンベヤ
計量機
<プラットホーム>
残渣選別コンベヤ
整列装置
ホッパ
振動コンベヤ
残渣コンベヤ (1)
紙目動色選別回収装置
カレット搬送コンベヤ (1)
カレット白
カレット茶
カレットその他
色別カレット貯留場
資源ごみ
（缶類）
資源ごみ用磁選機
資源ごみ受入ホッパ
資源ごみ受入コンベヤ
排水ポンプ
資源ごみ供給コンベヤ
アルミ選別機 (1)
アルミ搬送コンベヤ
アルミ缶減容機
残渣コンベヤ (4)
残渣コンベヤ (3)
残渣コンベヤ (2)
不燃ごみ及び粗大ごみ
粗破砕機投入装置
ダンピングボックス
粗破砕機
不燃ごみ及び粗大ごみ受入ホッパ
不燃ごみ及び粗大ごみ受入コンベヤ
排水ポンプ
不燃ごみ及び粗大ごみ供給コンベヤ
回転式破砕機
風力選別機 (1)
破砕物搬送コンベヤ
風力選別機 (2)
風力選別機 (3)
磁選機 (1)
不燃物可燃物選別機
風力選別機 (4)
雑ごみ搬送コンベヤ
アルミ選別機投入コンベヤ (1)
アルミ選別機投入コンベヤ (2)
磁選機 (2)
振動フィーダ
アルミ選別機 (2)
サイクロン
バグフィルタ
脱臭装置
空気圧縮機
排風機
切替ダンパ
プラスチック搬送コンベヤ
破砕機
定量供給機
プラスチック類減容化装置
鉄貯留ホッパ
不燃物貯留ホッパ
可燃物貯留ホッパ
アルミ貯留ホッパ
プラスチック貯留ホッパ
記号
名称
ごみの流れ
空気の流れ
散水
消臭剤噴霧
<プラント用水>
上水
各所へ
消臭剤噴霧装置

処理施設主要設備

中央監視操作室

回転式破砕機

粗破砕機・粗破砕機投入装置



不燃物・可燃物選別機（トロンメル）

羽村市ストックヤード

延床面積	圧縮設備設置棟	２９９．５２ｍ²
	東側保管棟	１８０．２７ｍ²
	西側保管棟	１９６．１２ｍ²
処理対象物	資源ごみ（容器包装プラスチック・ペットボトル・白色トレー・カレット・剪定枝チップ）	
委託業者	株式会社　加藤商事	
設　　計	株式会社　トーニチコンサルタント一級建築士事務所	

容器包装プラスチック圧縮減容機（１号）

ストックヤード全景

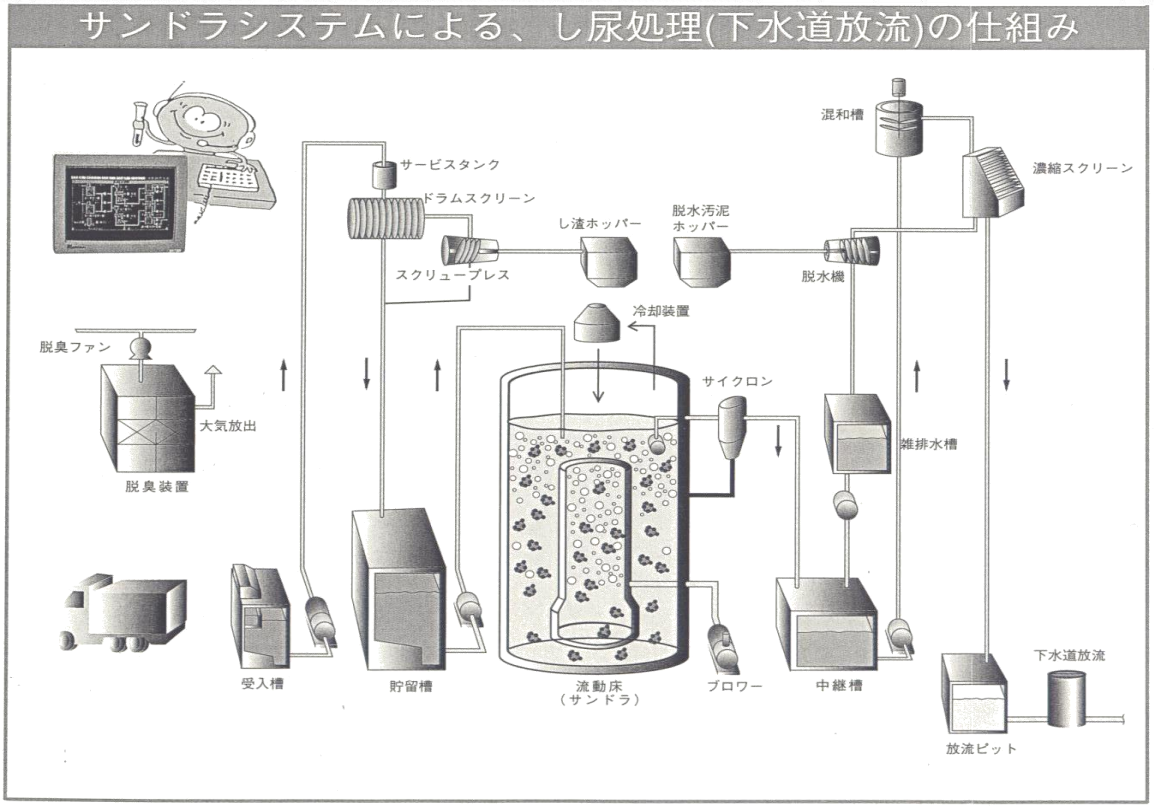
容器包装プラスチック圧縮減容機（２号）

ペットボトル圧縮・梱包後

(2) 羽村市クリーンセンター

敷地面積　　６２６．９０ｍ²
延床面積　　３６８．７０ｍ²
稼働開始　　平成６年４月
処理能力　　４kℓ/日
処理方法　　高負荷脱窒素処理方式（サンドラシステム）
処理対象物　し尿・浄化槽汚泥
委託業者　　浅野環境ソリューション株式会社
設計施工　　浅野工事株式会社

施設の概要



主処理設備

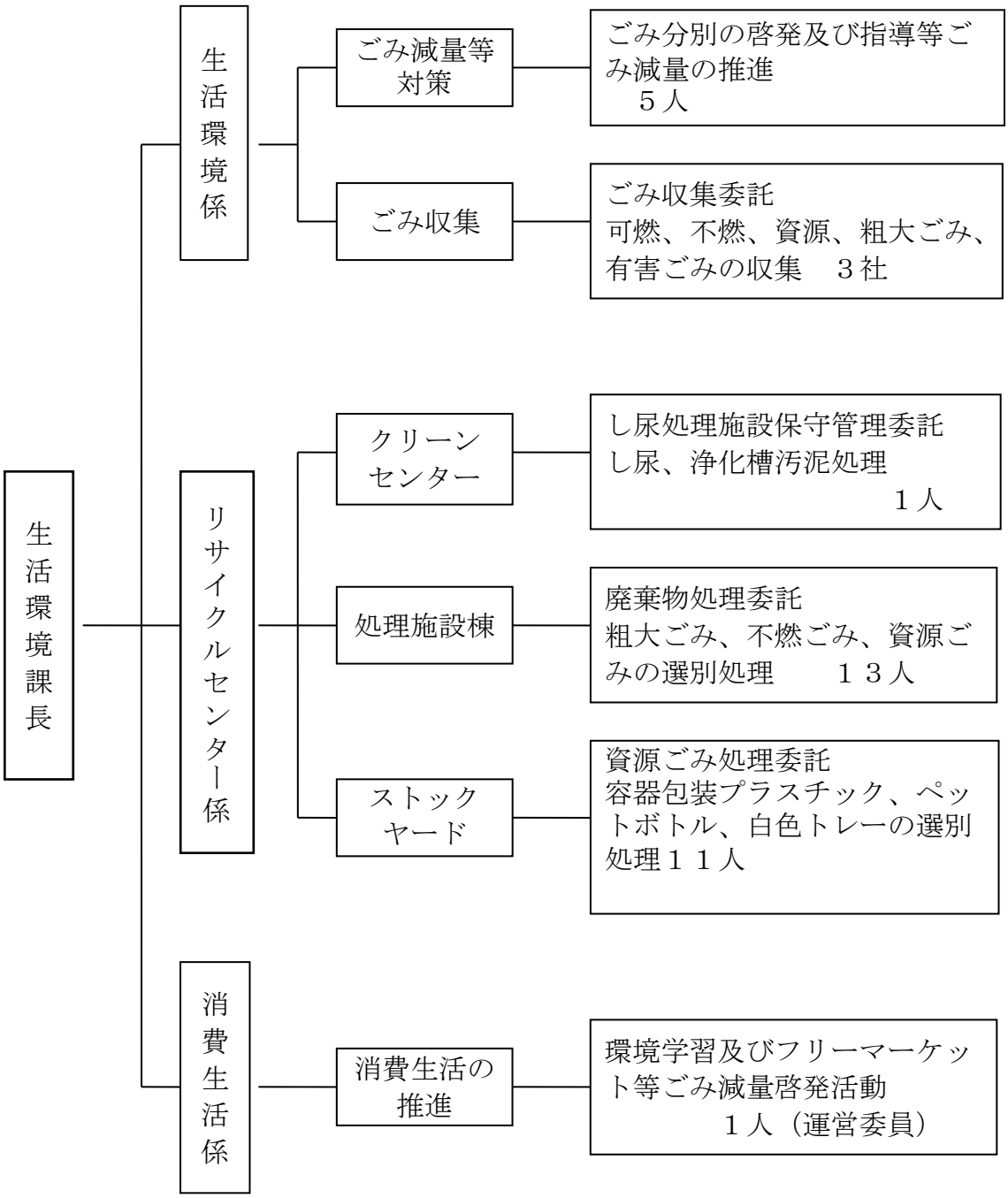
汚泥脱水処理設

脱臭処理設備

注　ｻﾝﾄﾞﾗｼｽﾃﾑ　微生物固定化担体を利用した高負荷脱窒素処理後、下水へ放流 。
　　汚泥処理　濃縮スクリーンで濃縮された汚泥を脱水処理します。
　　脱臭処理　臭気は酸、アルカリ洗浄、活性炭吸着により完全処理します。

２　私たちの組織

リサイクルセンターは産業環境部生活環境課に属し、リサイクルセンター係は職員２人、臨時職員１人で管理運営に当たっています。ごみ処理作業はすべて委託しています。



第２章　私たちの環境の取組

１　環境方針

基本理念

羽村市は、羽村堰や玉川上水をはじめとする、歴史的、文化的遺産を先人から受け継ぎ、多摩川や武蔵野の面影を残す雑木林などの水と緑に恵まれた環境の中で、美しいまちとして発展してきました。

一方、社会全体を見ると、大量生産、大量消費の社会システムは、大量廃棄による最終処分場のひっ迫を招くなど、地球環境に影響を及ぼすこととなりました。

人類が生命を存続させていくためには、このことを十分に認識し、良好な環境を将来の世代に引き継いでいかなければなりません。

そのためには、羽村市一般廃棄物処理基本計画に基づき、「ごみの減量」「リサイクルの推進」「市民・事業者・行政の連携」「地域環境の保全」を基本項目とし、人と自然の共生を目指し、安定した持続可能な循環型社会を実現していきます。

羽村市リサイクルセンターは、この目標を達成するため、次のことを実施していきます。

(1) 施設の運転管理は関係法令を遵守し、適切な施設の維持管理を推進し、ごみの減量化、資源化を図り資源の節減及び環境負荷の低減に努めます。

(2) 地球温暖化防止のため、省エネルギーを一層推進し、社会全体としての温室効果ガスの排出削減を図ります。

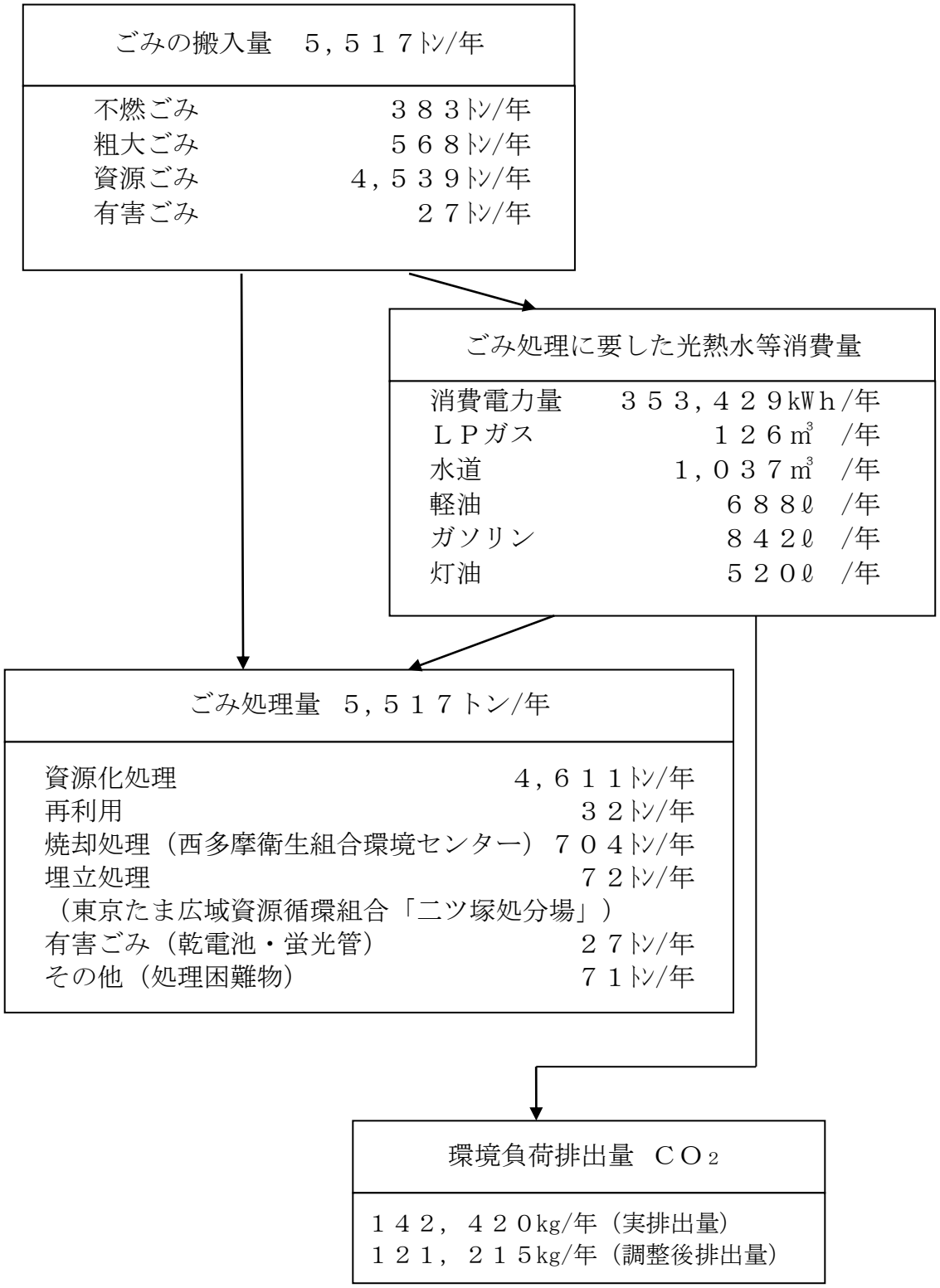
(3) 環境情報を積極的に公開し、見学者を積極的に受け入れて、工場内やデータを公開していきます。また、分別の指導を実施します。

羽村市リサイクルセンター

処理施設棟

２　環境負荷（リサイクルセンター単年度、推移）

(1) 平成２２年度の物質収支

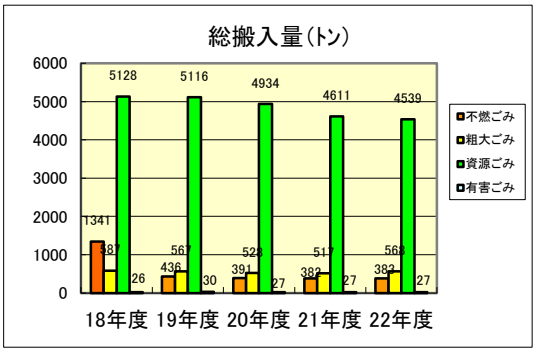


購入電力のCO_2排出係数には、実排出係数を使用した数値と、調整後排出係数（国内クレジット制度、オフセットクレジット制度等による調整）を使用した数値の２種類があるため、CO_2排出量は実排出量、調整後排出量を公表します。

(2) 平成18年度から22年度の推移

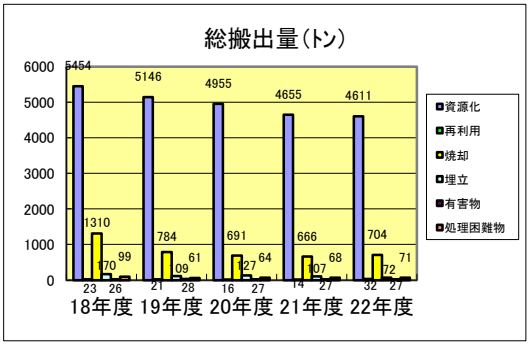
総搬入量

平成19年度から資源ごみの分別収集をさらに進めたことから、不燃ごみ搬入量が減少しました。ごみの全体量も年々減少しています。
※平成22年度の市民一人当たり搬入量5,517トン / 57,579人＝95.82kg



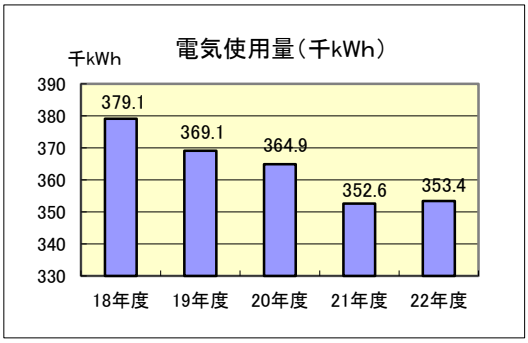
総搬出量

平成22年度
5,517トン



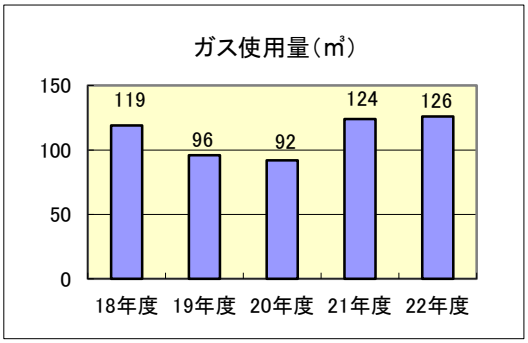
電気使用量

主に、破砕機、圧縮減容機等の機器類を動かすために使用します。
電気使用量は微増となりました。



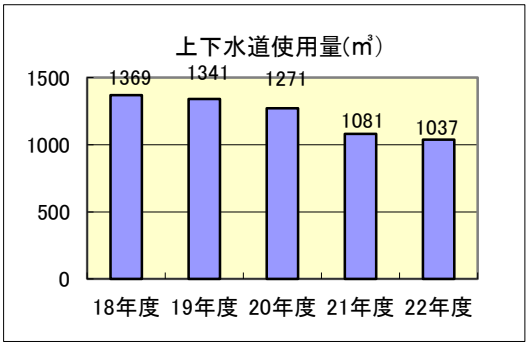
ガス使用量

主に管理棟で使用しています。



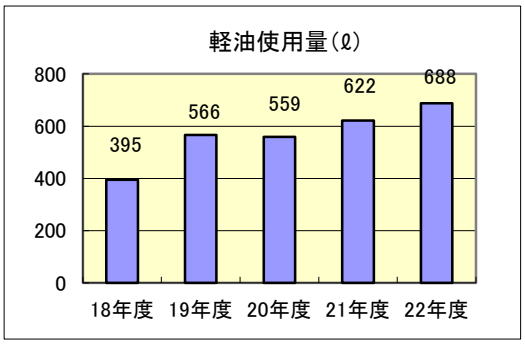
上下水道使用量

管理棟、処理棟、ストックヤードの上下水道使用量です。



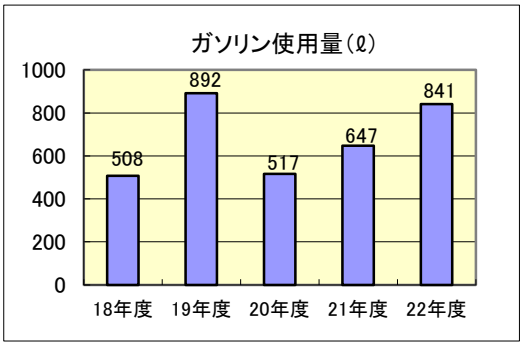
軽油使用量

　ショベルローダー、剪定枝チッパーに使用しています。
（ショベルローダーは平成22年度（H23年2月）に老朽化及びディーゼル車規制によりガソリンエンジン車を購入。）



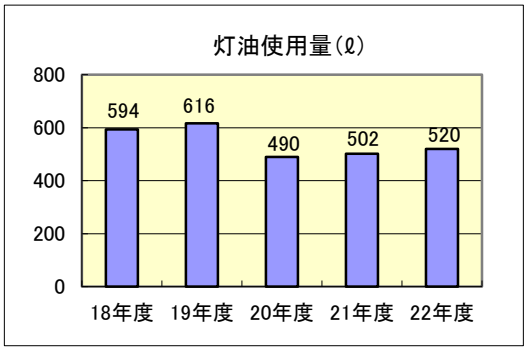
ガソリン使用量

　ごみの不法投棄回収トラック等公用車に使用しています。
　ショベルローダーは平成22年度（H23年2月）に老朽化及びディーゼル車規制によりガソリンエンジン車を購入したためガソリン使用量が増加となりました。



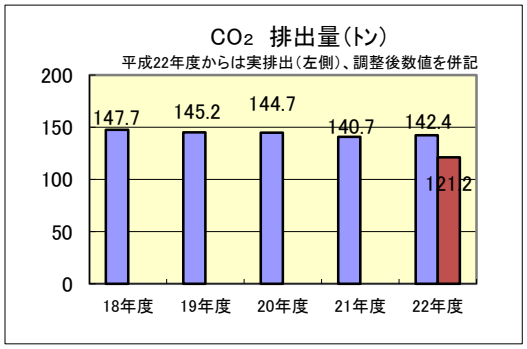
灯油使用量

　主にストックヤード（圧縮減容棟）の暖房に使用しています。



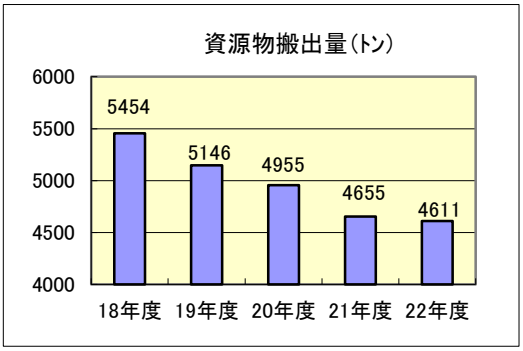
（CO2排出量変化のコメント）

　平成22年度から、電気使用によるＣＯ2排出量は、電気事業者別のＣＯ2排出係数を使用しているため、実排出係数、調整後排出係数により算定した数値を併記しています。



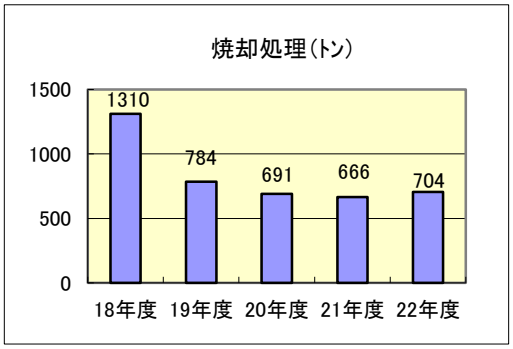
資源物搬出量

　鉄、アルミ、プラスチック、ペットボトル、ビン等の資源物に分け搬出しています。
　ごみ全体量の減少に伴い、資源物搬出量も減少しています。



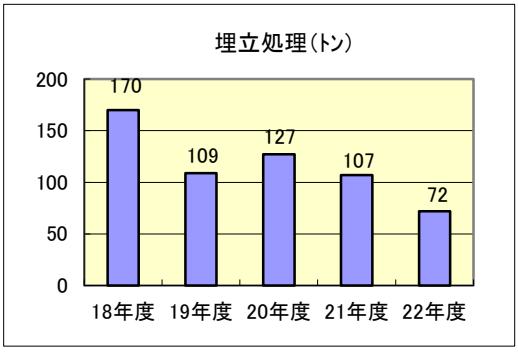
焼却処理

不燃ごみ等の中間処理により発生した残渣の可燃性ごみは、西多摩衛生組合環境センターへ搬入し、焼却（サーマルリサイクル）した後に、焼却灰は東京たま広域資源循環組合「二ツ塚処分場」で、エコセメントにリサイクルされています。



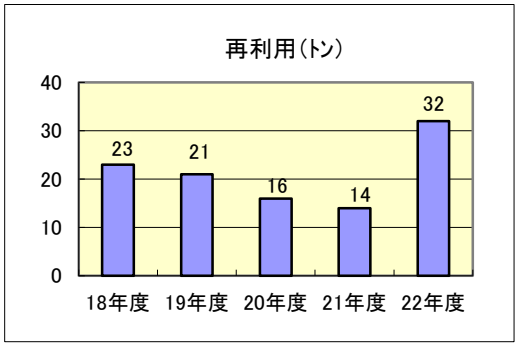
埋立処理

不燃ごみ等の中間処理により発生した残渣の陶磁器、ガラスくず等については、東京たま広域資源循環組合「二ツ塚処分場」にて埋立処理しています。



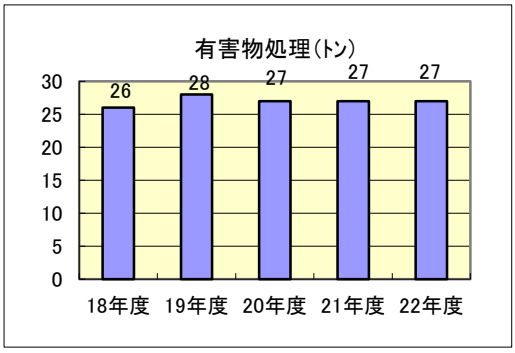
再利用

剪定枝のチップ、粗大ごみからのリユース品など。平成22年4月から燃やせるごみとして無料で収集していた剪定枝のチップ化を開始したことや、10月から西多摩衛生組合で使用する活性炭の原料として搬出を開始したため増加しています。



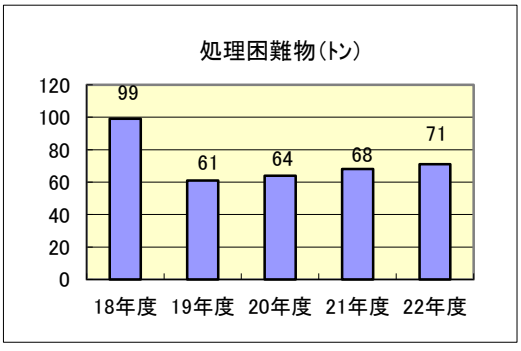
有害物処理

乾電池・蛍光管は、有害物として、専門業者に搬出しています。

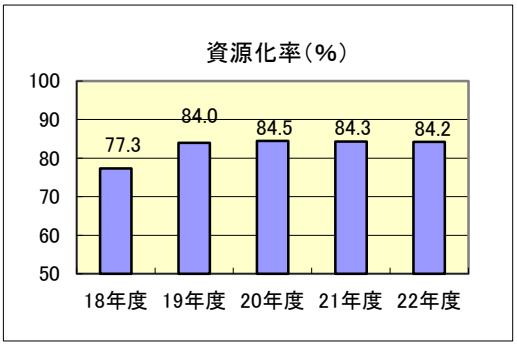


その他（処理困難物）

ベッドマット、傘、ござ等の破砕処理が困難な物、また、使い捨てライターについては、専門業者に搬出しています。



資源化率
（資源物搬出量＋再利用量）/総搬出量×100
年間総搬出量のうち、どれだけ資源化できたかの割合です。

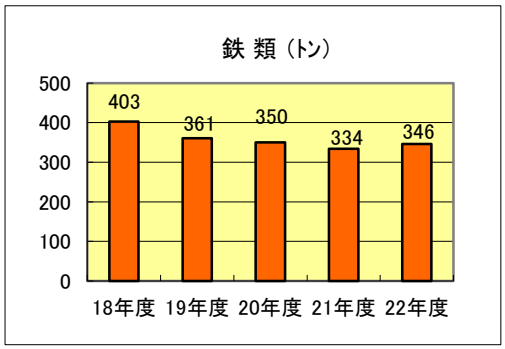


3　再資源化の取組

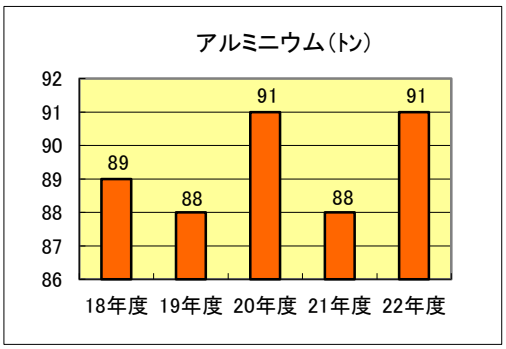
市民による資源の分別だけでなく、不燃ごみ、粗大ごみの中からも手選別、機械選別により鉄・アルミニウム・硬質プラスチック等を抜き出し、資源化を図っています。

（1）有価物

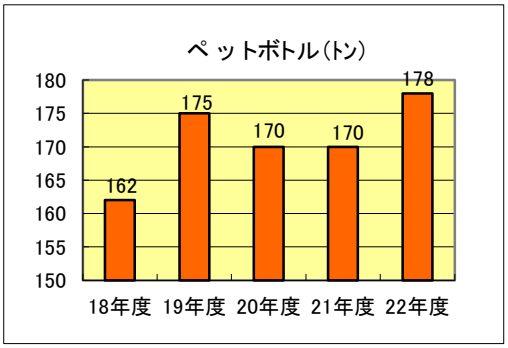
鉄類
スチール缶、破砕スチール（不燃ごみ、粗大ごみの中から取り出した鉄）等。



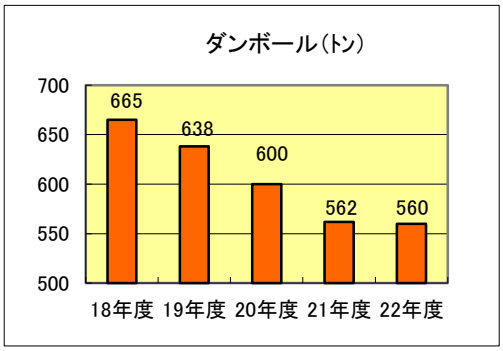
アルミニウム
アルミ缶、その他アルミ（鍋・釜）など非鉄金属類。



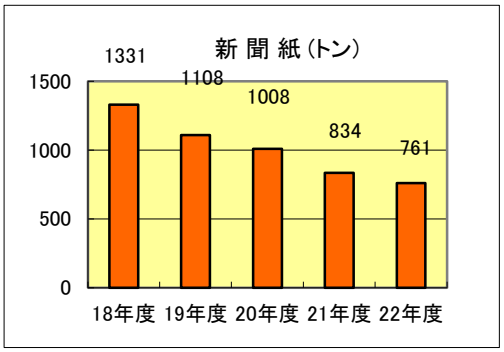
ペットボトル
羽村市指定収集袋として独自ルートでリサイクルされています。



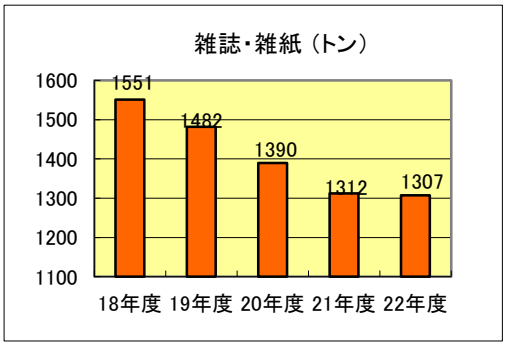
ダンボール
　古紙問屋に引き渡し、製紙工場でリサイクルされています。



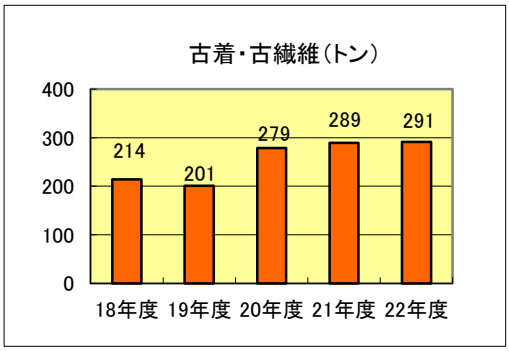
新聞紙
　古紙問屋に引き渡し、製紙工場でリサイクルされています。



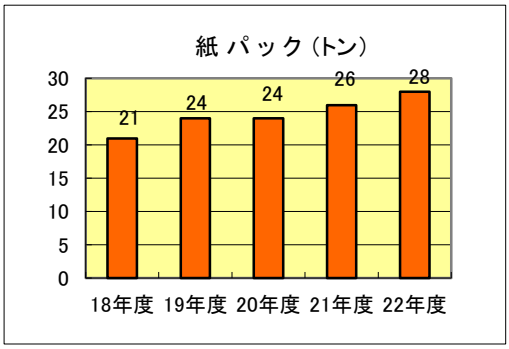
雑誌・雑紙
　古紙問屋に引き渡し、製紙工場でリサイクルされています。



古着・古繊維
　古繊維問屋に引き渡し海外へ輸出しリユースしたり、繊維工場でリサイクルされています。

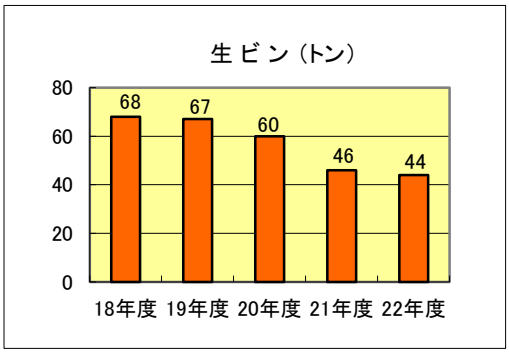


紙パック
　古紙問屋に引き渡し、製紙工場でリサイクルされています。



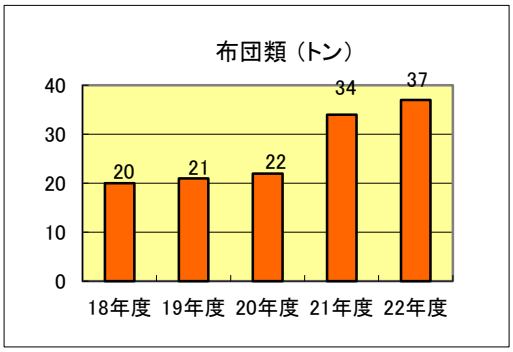
生ビン

１升ビン、ビールビン、ウイスキーのビンなどは、選別しリユースしています。



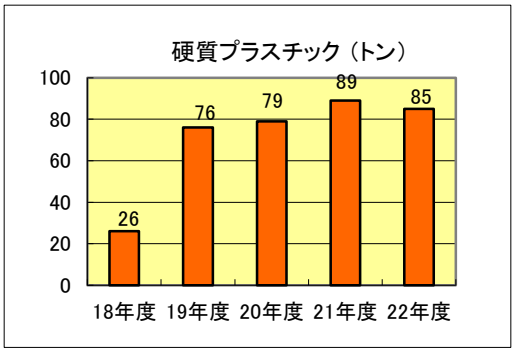
布団類

繊維問屋に引き渡し、繊維工場でリサイクルされています。
平成２１年度から、従来の綿布団に加え、ポリエステル等の化繊布団も搬出しています。



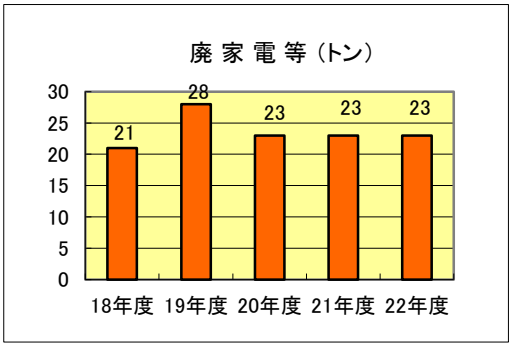
硬質プラスチック

平成１９年度から、資源ごみとして分別収集をしています。
また、不燃ごみや粗大ごみを分解し選別しています。



廃家電等

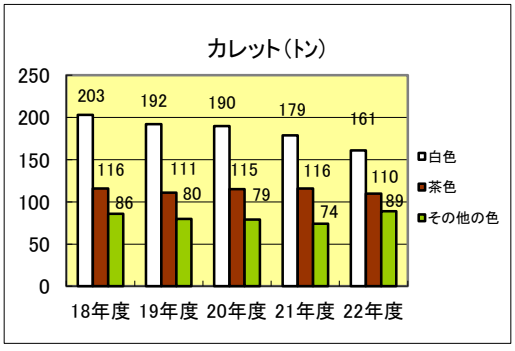
平成１８年８月から、使用可能な家電製品、自転車等を引き取り業者に売却し、リユースしています。



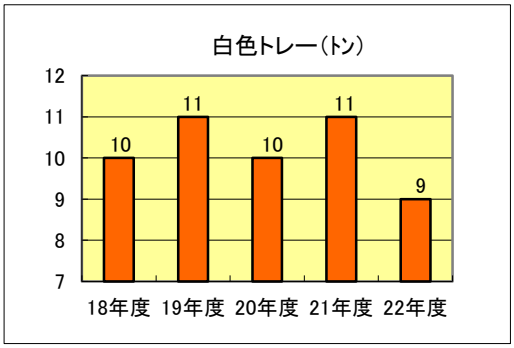
（２）容器包装リサイクル法による処理

カレット

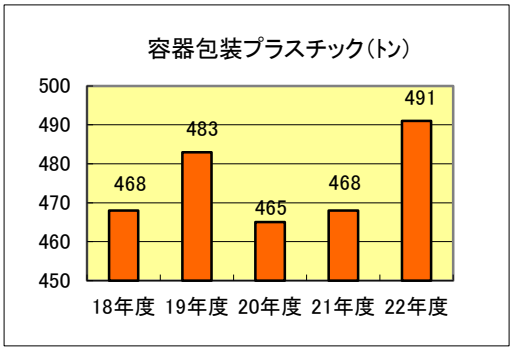
白色、茶色、その他の色に選別した後に、財団法人日本容器包装リサイクル協会に引き渡し、再商品化事業者によりリサイクルされています。



白色トレー
　財団法人日本容器包装リサイクル協会に引き渡し、再商品化事業者によりリサイクルされています。

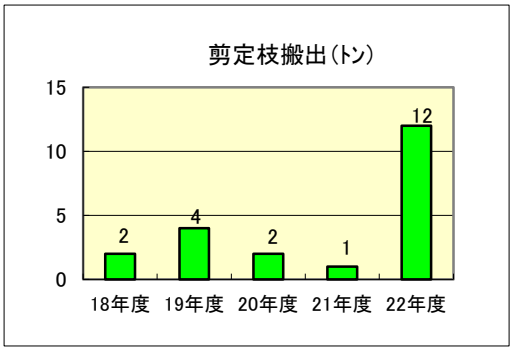


容器包装プラスチック
　財団法人日本容器包装リサイクル協会に引き渡し、再商品化事業者によりリサイクルされています。

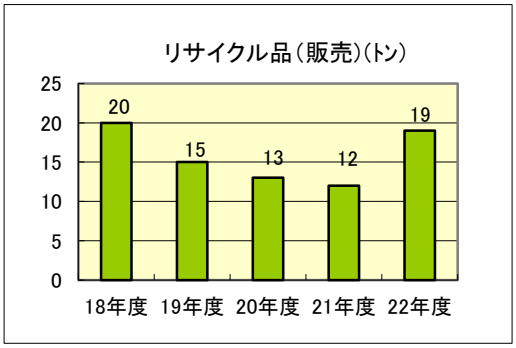


（３）再生品の利用等

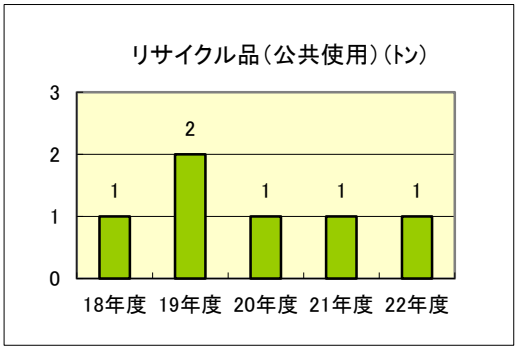
剪定枝のチップ化
　家庭から持ち込まれた剪定枝をチップ化し、堆肥の原料として市民に無料配付しています。また、平成22年10月から西多摩衛生組合で使用する活性炭の原料として搬出を開始しました。



リサイクル品の販売
　リサイクルセンターで補修した家具などは、「福祉の店 あおぞら」で販売しましていましたが、平成22年4月から社団法人羽村市シルバー人材センターと協定を結びリサイクルセンター内の展示室で販売を開始しました。



リサイクル品のリユース
　使用可能な家具等を、公共施設で使用しています。

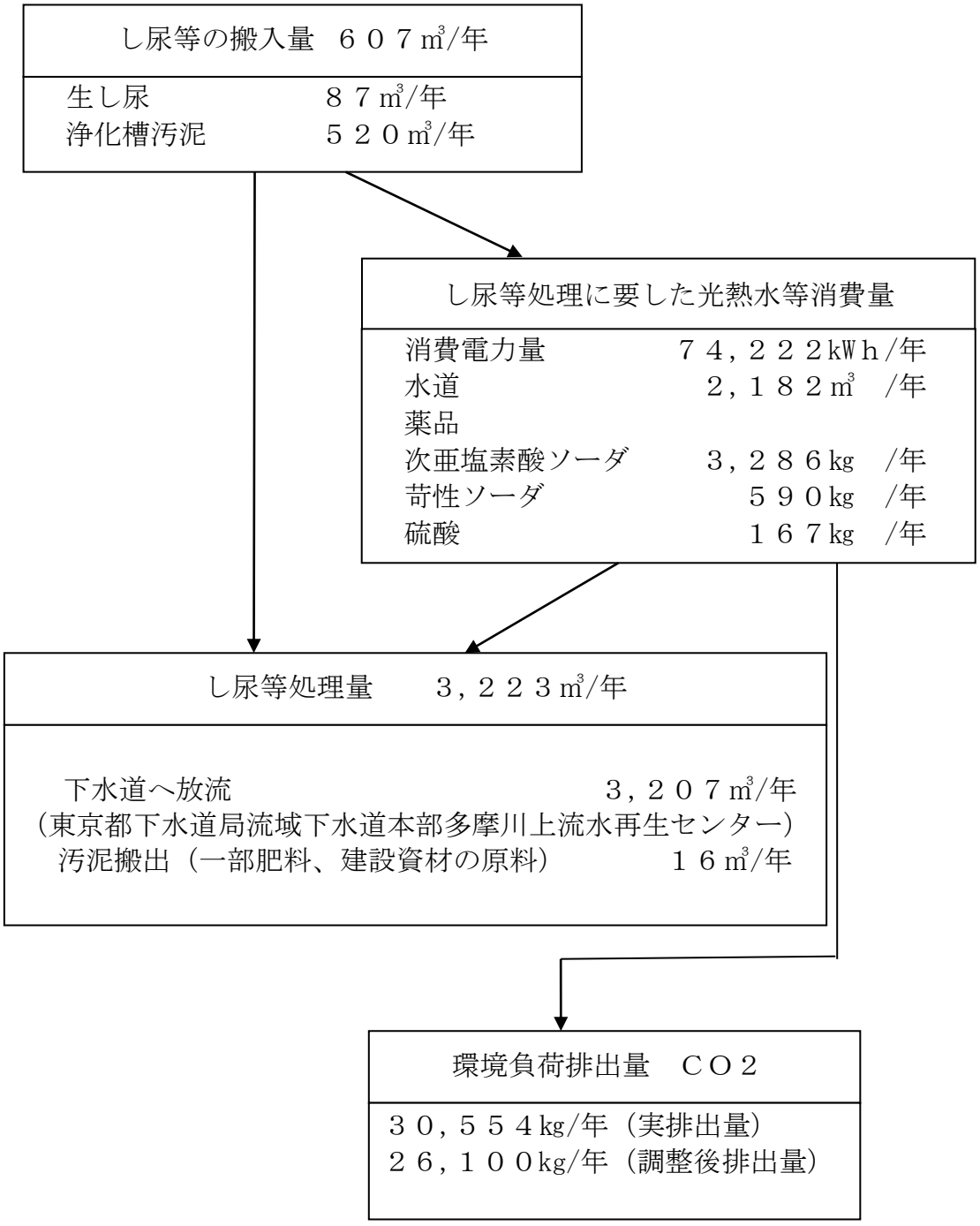


羽村市クリーンセンター

クリーンセンター処理施設

４　環境負荷（クリーンセンター単年度、推移）

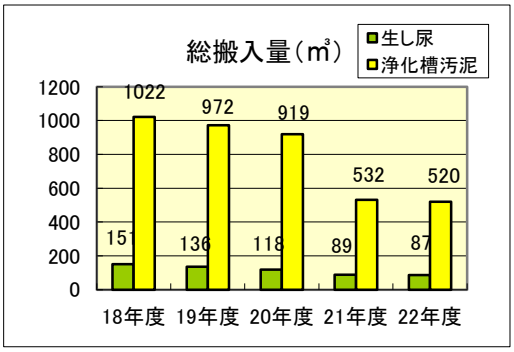
（１）平成２２年度の物質収支



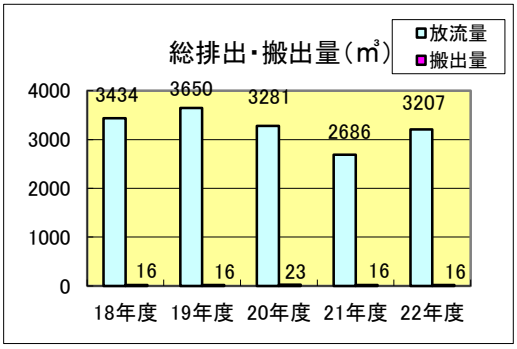
購入電力のCO_2排出係数には、実排出係数を使用した数値と、調整後排出係数（国内クレジット制度、オフセットクレジット制度等による調整）を使用した数値の２種類があるため、CO_2排出量は実排出量、調整後排出量を公表します。

（２）平成１８年度から２２年度の推移

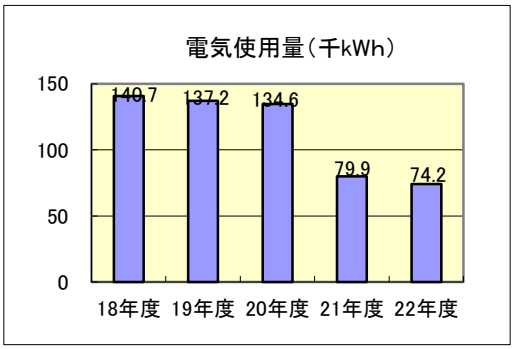
総搬入量
平成22年度　607㎥
下水道未接続家庭、工事等仮設トイレの生し尿及び浄化槽汚泥。
平成22年度は、公共下水道供用開始区域内一般家庭52件、事業所9件、仮設トイレ226件。
公共下水道供用開始区域外一般家庭12件事業所23件。



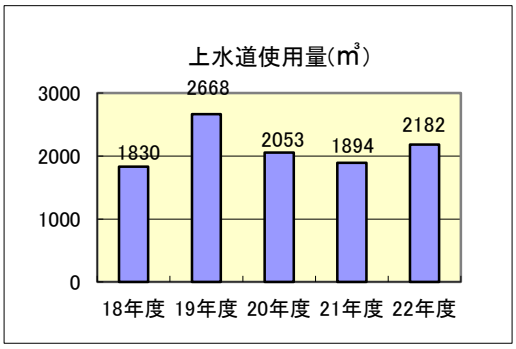
総排出・搬出量
放流量・汚泥搬出計　３，２２３㎥
下水道への放流　３，２０７㎥
汚泥搬出量　１６㎥



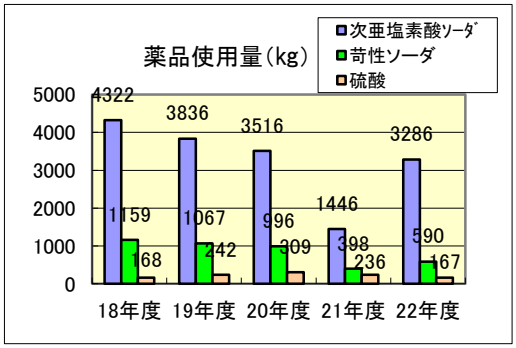
電気使用量
週2日の受入及び、巡回を1日設け稼働しています。搬入量の減少から電気の使用量は減少しました。



上水道使用量
処理水を、公共下水道へ放流時、希釈のため使用しています。

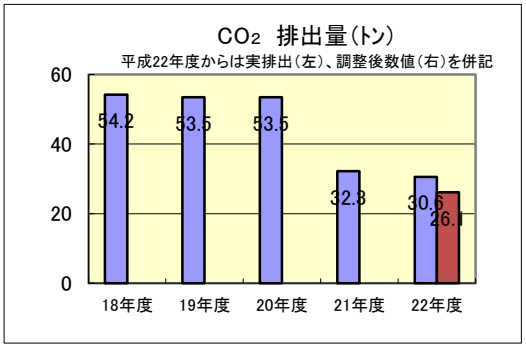


薬品使用量
脱臭処理のため、次亜塩素酸ソーダ、苛性ソーダ、硫酸を使用しています。



CO2排出量

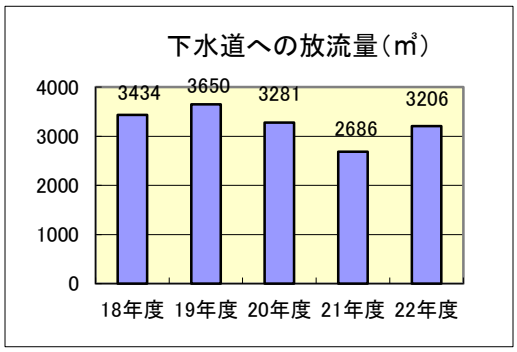
平成22年度から、電気使用による ＣＯ2排出量は、電気事業者別のＣＯ2排出係数を使用しているため、実排出係数、調整後排出係数により算定した数値を併記しています。



○排水

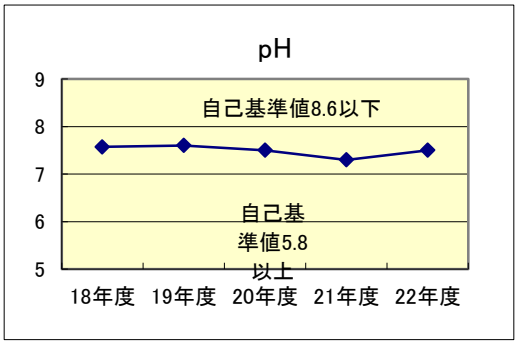
下水道への放流量

高負荷脱窒素処理方式により処理した排水は、公共下水道に流しています。



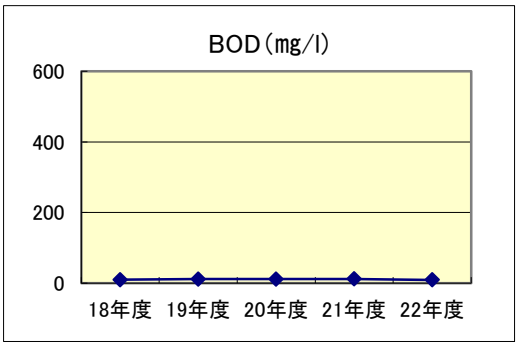
pH（水素イオン濃度）

水の酸性/アルカリ性を示しています。pH７は中性を示します。
（羽村市下水道課測定値）
自己基準値pH5.8以上　pH8.6以下に適合しています。



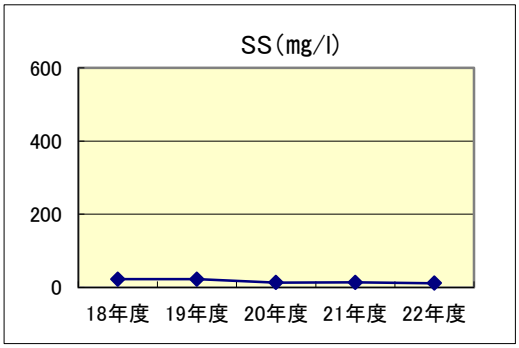
BOD（生物化学的酸素要求量）

排水中の有機物の量を知るものです。水質が悪くなると値は高くなります。
基準（羽村市下水道排除基準値600 mg/l）と比べて大変低い値で推移しています。

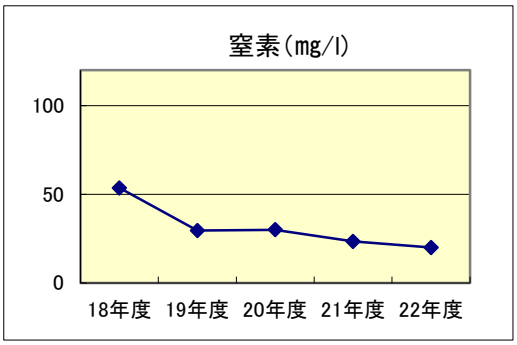


ＳＳ（浮遊物質量）

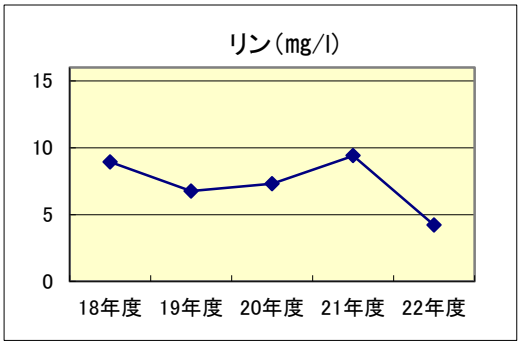
排水中の濁りを知るものです。水質が悪いと、値は高くなります。
基準（羽村市下水道排除基準値600 mg/l）と比べて大変低い値で推移しています。



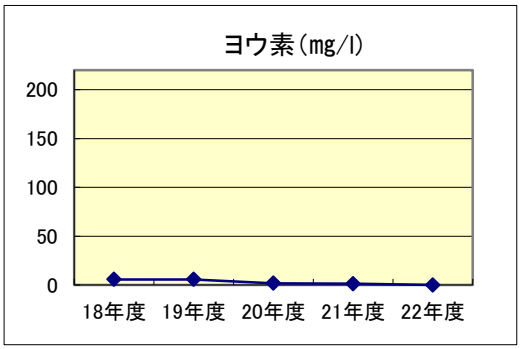
窒素
　基準（羽村市下水道排除基準値120mg/l）と比べて大変低い値で推移しています。



リン
　基準（羽村市下水道排除基準値16mg/l）と比べて低い値で推移しています。

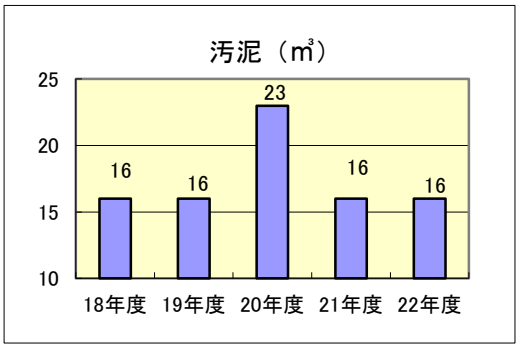


ヨウ素
　主に、水中の硫化水素量を推定するために用いられる指標です。
基準（羽村市下水道排除基準値220mg/l）と比べて大変低い値で推移しています。



○汚泥の搬出

汚泥
　脱水処理した汚泥は、処理業者に搬出しています。汚泥の一部は、肥料や建設資材の原料となります。



5　環境負荷を減らす取組

○地球温暖化防止

　投入エネルギー削減の効率の改善
収集委託車両の天然ガス化への依頼。

○雨水の利用

　雨水を溜めておき、植木などへの散水や、ごみ収集車の洗浄に使用しています。

○事務室での取組

　ペーパーレスの推進、裏紙の使用など、紙の使用量の削減に努めています。
　適切な冷暖房の温度設定、また、昼休み時の消灯や、廊下等の照明は不要時には消灯するなど、節電に取り組んでいます。
　事務室から出るごみについても、分別を徹底しています。

６　安全衛生などの取組

(1) 安全研修会等の取組

ごみ処理作業は、事故など危険を伴う仕事です。職場の安全と健康を確保するため、工場、作業場の安全確認、作業上の注意点など、始業時のミーティングを通じて安全意識の啓発に努めています。

また、収集事業者を交えた意見交換会も実施しています。

開催状況

７月１５日（木）　収集運搬業務委託事業者との意見交換会
７月２０日（火）　〃
７月２２日（木）　〃
５月１１日（火）・１２月１７日（金）収集運搬業務委託事業者研修会

収集運搬業務委託事業者との意見交換会

処理工場内安全作業啓発のぼり等の掲示

(2) 自衛消防隊

リサイクルセンター係と、工場委託事業者で自衛消防隊を組織しています。

自衛消防訓練の様子

第３章　コミュニケーション

富士見公園で開かれた青空市（フリーマーケット）

１　施設の見学・視察

平成２２年度の見学・視察者は、２２団体で４９２人の方が訪れました。
（小学校、中学校、大学、町内会・自治会等）

なお、施設見学・視察をご希望の方は、下記の電話にお問い合わせください。
※　羽村市リサイクルセンター
　　TEL０４２－５７８－１２１１

小学校見学の様子

２　体験学習の受入

さまざまな職業の人たちとの出会いを通し、職業観や人生観を学ぶ機会づくりや、実際にその職業の一部を体験する中で、より具体的に職業について考え、知識や理解を深め、働くことの楽しさや厳しさを体験することを目的として、市内の中学校、高等学校からの申し込みにより、体験学習を行っています。

体験する仕事は、主にペットボトル、容器包装プラスチック類の選別作業、リサイクル品の補修、粗大ごみ直接持ち込みの受け付けです。

（２２年度は中学２年生の体験学習を受け入れました。）

容器包装プラスチックなどの選別、リサイクル品の補修など

体験した中学生から、「短い期間でしたが、今回の職場体験で私は、ごみの分別や皆が真剣に働いている姿を見て、働くことの楽しさや厳しさ、物を大切に使うなどいろいろ学ぶことができました。この経験を、これからの生活や進路に生かしていきたいと思います。」などの感想文が寄せられています。

３　社会的活動

○市内いっせい美化運動等の実施

市内いっせい美化運動

年２回、道路や公園などに捨てられている空き缶、空きびん、紙屑などのごみを市内いっせいに回収をして、市内の美化を図っています。

開催日　平成２２年　５月２３日（日）

平成２２年１１月１４日（日）

○青空市（フリーマーケット）

家庭で不要になった品物などの再使用を図ることを目的に、年２回実施しています。毎回、多くの人が集まり市民の交流の場ともなっています。

開催日　平成２２年　５月１５日（土）羽村市富士見公園

平成２２年１１月２０日（土）　〃

また、リサイクルセンターでは再利用可能な家具などの補修作業を障害者と共に行い、技術の習得、社会への参加など障害者への支援を行っていましたが、平成２２年度からは、社団法人羽村市シルバー人材センターが事業を引き継ぎ、リサイクルセンター内（展示室）で補修後、販売を行っています。

市内いっせい美化運動

青空市（フリーマーケット）

リサイクルセンター内（展示室）でのリサイクル品の販売

緑化の取組

（２）緑化の取組

搬入・搬出路に沿って、樹木が植えられています。

植栽や樹木の剪定などは、工場職員が行い、一部の高木を剪定委託により実施しています。また、まちを花でいっぱいにして、潤いのあるまちづくりを目指す「花いっぱい運動」へも参加しています。

敷地内の緑

構内は、植栽面積が少ないことから低層木を中心に緑化が図られています。

４　事業のあゆみ

年　　月	出　来　事
昭和５３年　８月	不燃物の処理選別施設「羽村町資源回収センター」を設置 金属及びガラス類の手選別を開始
昭和５７年　４月	粗大ゴミの収集を開始
平成　３年１０月	空き缶・空きびん・古紙・古繊維の分別収集開始（11分別）
１２月	紙パックの拠点回収を開始
平成　６年　４月	羽村市し尿処理施設「羽村市クリーンセンター」を設置 ペットボトルの選別を開始
平成　７年　４月	白色トレーの選別開始
平成　８年　４月	羽村市リサイクルセンター設置 白色トレー・ペットボトルの分別収集を開始（13分別）
平成１１年　４月	グリーンリサイクル（剪定枝資源化）を開始
平成１２年　４月	容器包装プラスチック・雑紙の分別収集を開始（15分別）
平成１４年１０月	戸別収集、一部有料化を導入
平成１５年　４月	ストックヤード圧縮設備設置棟・東側保管棟・西側保管棟を設置
平成１８年　８月	小型家電等の売却を開始
平成１９年　４月	硬質プラスチック・金属の分別収集を開始（17分別）
平成２０年　８月	容器包装プラスチック圧縮減容機入替
平成２２年１０月	西多摩衛生組合使用の活性炭原料として剪定枝チップの搬出開始

建設の経緯

羽村市リサイクルセンターは、資源物及び不燃系廃棄物、粗大ごみ等の選別処理の徹底を図り、廃棄物の減量と限りある資源の有効利用を促進し、もって市民の快適な生活環境の保全に資するために設置された工場です。

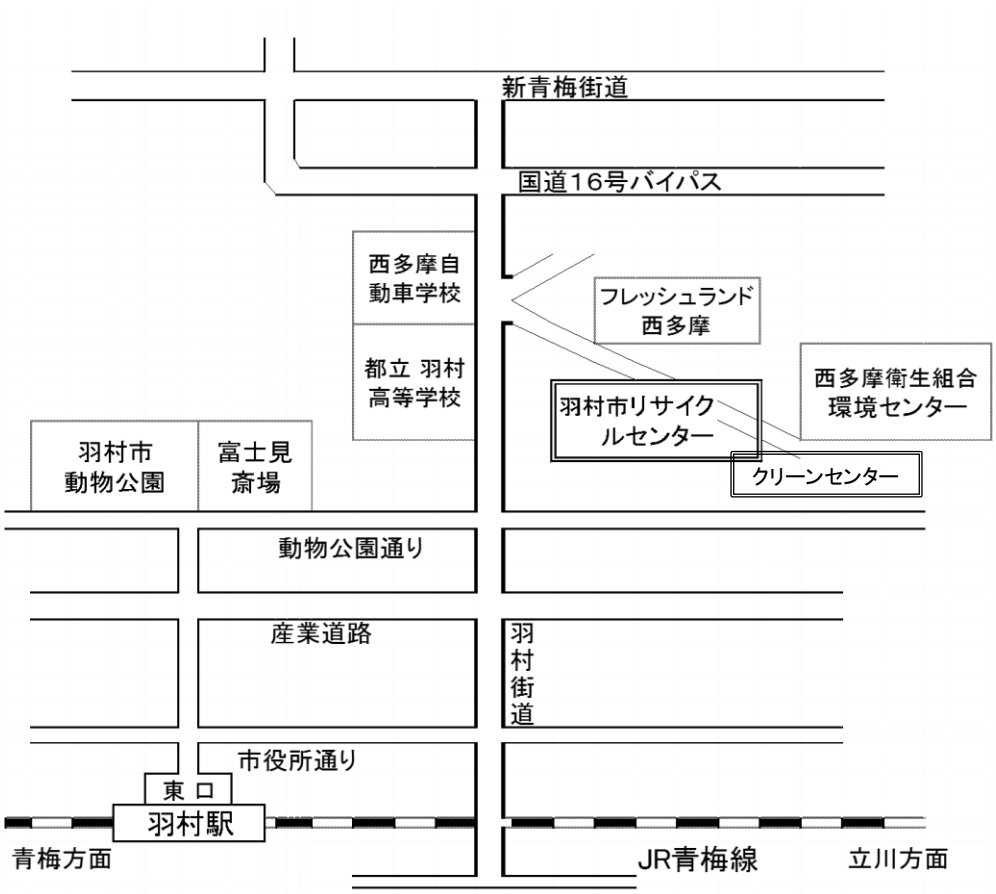
編集後記

環境報告書の発行は、今年度で４回目となります。

多くの方から貴重なご意見ご指導をいただき発行しています。

今後は、さらに充実した内容になるよう努めていきますので皆様のご意見をお聞かせください。

案 内 図



名　　称：羽村市リサイクルセンター
所　在　地：〒２０５－００１２　羽村市羽４２２１－１
電　　話：０４２－５７８－１２１１
Ｆ　Ａ　Ｘ：０４２－５７８－１１５１
発　行　日：平成２３年１１月
作　　成：羽村市産業環境部生活環境課リサイクルセンター係
URL：http://www.city.hamura.tokyo.jp
E-mail：s208000@city.hamura.tokyo.jp